



Patterns of involvement of digits in patients with multiple trigger digits: A retrospective study

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 浜松医科大学 公開日: 2023-04-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 鈴木, 歩実 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00004359

論文審査の結果の要旨

ばね指は、指に発症する腱鞘炎の一種で、進行すると指がはねるような動作をする疾患である。ほとんどが最近位の A1 腱鞘で起こり、女性や糖尿病の合併例に多くみられ、複数指の罹患もしばしばみられる。申請者は、日常診療で複数指ばね指の罹患パターン（対称性、隣接性）に興味を持ち、複数指のばね指の関連因子についての検討を後ろ向きに行った。本研究は、聖隷浜松病院の臨床研究審査委員会の承認（2786）を得て行われた。

2008 年から 2018 年の間に聖隷浜松病院で治療を行った A1 腱鞘ばね指の成人患者 1019 名を抽出した（手の外傷歴、先天異常手、膠原病合併例は除外）。このうち単数指罹患群が 577 例、複数指罹患群が 387 例であった。解析結果は、単数指罹患群と複数指罹患群との比較で、複数指罹患群に有意に糖尿病罹患が多かった ($p < 0.001$)。複数指罹患のうち対称性罹患は 164 例 (164/387:42.4%) で指の内訳は、母指 81 例 (20.9%)、中指 65 例 (16.8%) であった。隣接指罹患は 110 例 (110/387:28.4%) で同側中環指が 83 例 (21.4%) であった。これら組み合わせの割合は、1 指目が 2 指目の罹患に影響しないと仮定した場合の予測値と比較し有意に高かった ($p < 0.001$)。関連因子について多変量解析では、対称性罹患は好発年齢 (50-69 歳) での初発、女性、時間差罹患で有意に関連性を認めた。隣接指罹患は男性、2 指同時罹患で有意に関連性を認めた。今回の研究から、対称性罹患は内因性要素が関連し、隣接指罹患は物理的な反復ストレスなど外因性要素が関連すると考えられた。

審査委員会では、複数指のばね指について、対称性罹患と隣接指罹患とを詳細に解析を行ったこと、さらにこれらの新規知見は、実臨床での複数指罹患の予防、早期診断、治療介入、患者理解度の向上に役立っていることを高く評価した。

以上により、本論文は博士（医学）の学位の授与にふさわしいと審査員全員一致で評価した。

論文審査担当者

主査 三澤 清

副査 山中村 友彦

副査 山内 克哉